

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(多気町)の概要

9月17日(火)に多気町の丹生大師丹生山神宮寺庫裡で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「多気町勢和の語り部会」「多気語り部の会」の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

○「多気町勢和の語り部会」

多気町と勢和村の合併前からここ勢和で語り部をやっている。「多気町勢和の語り部会」という名称で活動しており、もともと勢和村史の編纂後、古文書整理のグループから移行し男女8名ずつで、平均年齢72歳で高齢である。本日の会場は、丹生の大師さんとして有名なところであり、北畠の特使、紀州藩の重臣が接待を受けた場所でもあり由緒ある客間である。また、この地域は水銀が有名であり、和歌山別街道として宿場町としても発展した地域でもある。代表的なものとして、伊勢暦の元になっている「丹生暦」がある。もうひとつ江戸時代に野呂元丈という勢和の波多瀬で薬草の研究をしていた有名な方がいる。名所旧跡を、自然豊かなところとして後世に伝えていきたいと思い活動している。

○「多気語り部の会」

いつも、勢和の語り部会に負けないでおこうと思っている。それぞれが近長谷寺・普賢寺などの案内をやっている。地域づくりに必要なものを町が支援してくれている。最近、語り部として呼びがかからない。10月に再度みんなで話し合う予定である。

Q,この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

今年、中学校の総合学習の時間に「勢和の歴史と文化」を子どもと一緒に勉強した。郷土史と一緒に勉強し、少しでも記憶に残ってくれたらという思いでやっていて、勉強できたことがとても嬉しかった。いろいろなテーマを持ち寄り、片野のお祭り、篠山城、水銀、櫛田川、丹生の大師、勢和中学校の歴史について、勉強させていただいた。夏休みの文化祭に発表するために勉強をしたことが嬉しかった。

日本風景街道という国土交通省の事業があったが、事業仕分けの時に予算を削ってしまった。今は無予算で奈良県の方と近畿整備局とでやっている。櫛田川に掛るつるの橋の下に「はかり岩」がある。その石橋（水止）が伊勢湾台風の時に流れてしまった。その復旧について旧松阪県民局でご尽力いただき、復活することができた。3街道が交わる、奈良の人はこの道のことを良く知っている。しかし、昨年の大水で、何かが橋にぶつかり、橋が沈んでいった。現在は直っている。伊勢本街道の分科会は相可と射和のマップを作ってくれた。特に奈良から来て、つるの橋を通過して相可、射和へ行くルートがあるが、今はその2つの地域も寂びれてきた。何とか盛り上げてあげたい。地域では新しい祭りもできた。若い人がそういう気持ちになっている。相可にはまだまだ、宝ものがある。伝えてほしい。県が「はかり岩」の橋を直してくれなかったら今はない。ありがたい。

私の知人である2つ年上の語り部の方は、女鬼峠を越えて4キロメートル離れた小学校まで通われて草履を2足用意しなければいけなかった。とそういう話を参加者にすると、大変感激される。また、新池では「生川池」にはくちなしの花が名産であるので、そこでも歌を歌うと喜ばれる。多気はまた「柿」が名産であるため、玉城に行く途中のお寺で試食していただくと喜ばれる。

あじさい祭りは「あじさいいっぱい運動から勢和の10地区、各地区のボランティアで立ち上げた。事務局は水土里ネットでおこない立梅用水も協力し、みんながボランティアであり、全国に誇れる活動である。「あじあさいまつり」にはたくさんの方が来てくれる。みんなで誇れることではないかと思う。まつり当日のポート下りなどの運営は、地元の中学生在がやってくれている。地域を上げて取り組んでいる。あじさいの肥培管理など、年3回～4回の草取り、競り、全部ボランティアで行っている。ここの地区だけでもボランティアが56人いる。ボランティアをやる日曜日は農業法人「せいわの里まめや」の前の駐車場に車が殺到する。嬉しい悲鳴である。

Q,この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝いがしてほしいなどありませんか？

産業は農業が中心であり心安らぐ地域で暮らせているが、日常生活では少し不便も

感じている。具体的には、高齢者世代の日常食品の購入や、保育所、小学校の統合による子どもたちの負担などがある。またこの地域には、医療機関がない。

この地域は、水銀で栄えた。石見銀山のようにこの地域もうまくできないかと思う。丹生の水銀を掘ったあとの洞窟が180も残っており2か所ほどは網が貼ってあるが覗けるようになっていて。常時、室温は16 ぐらいであり、お客さんには喜ばれる場所であるので、少しでも整備して中に入れるようにできないかと考えている。35年ほど前に海外研修に行かせていただいた。カナダの高等学校に研修に行った。プールが温水、講師はオリンピックの元プレイヤーでアスリートは年金がつくものだった。カナダでは講師料の契約は一年契約である。三重でもアスリートをスポーツ振興に利用できないだろうか。

平成17年に「弘法大師の湯」が閉鎖した。なんとか財政的な支援をお願いし、復活できないものか。肩こり、腰痛、関節炎、呼吸器、高血圧、婦人病によくきくし、また、心と体を癒したり、親睦にもなり医療費の削減にも繋がる。

和歌山別街道の周辺、勢和でも、最近、高齢化で空き家が目立つ。なんとかしてほしい。援助とかないものなのか。

多気は昔から、交通の要所であった。JRでも4つ駅がある。昔から伊勢本街道、和歌山別街道、熊野街道の3つがある。伊勢本街道は、案内が行き届いて案内もするまでもなく、地図を見て、素通りの状況である。趣を変えて、相可に道標広場がある。伊勢には「へんば屋」がある。相可にも「へんばや」がある。昔のように、農耕が済んだ馬を使って相可から小俣へ行き来したらどうか。

【知事の発言】

「自分の地域を自分たちが好きな人が多いほど、観光客がたくさん来る」と言う全国の観光のデータがある。今日のお話をお聞きして、皆さんが本当にここが好きなんだろうと改めて思い、これから、この地域の活性化の可能性が繋がっていけると実感した。色々お話をいただき、県でできること、町でできることも色々あるので、多気町とも相談したいと思う。良いお話を聞かせていただいた。



【「多気町勢和の語り部会」・「多気語り部の会」の皆さんとは】

多気町の歴史・文化を理解し、各地から訪れる観光客等に郷土の風土・歴史を紹介し、真心を込めた「おもてなし」で地域のイメージアップに努め、再び訪れたいくなるような魅力あるまちづくりに資する事を目的としている皆さんです。